



## 【開館50周年記念特別展】

## Seed 山種美術館 日本画アワード 2016 —未来をになう日本画新世代—

山種美術館は、日本画の奨励・普及活動の一環として創設した『山種美術館賞』を、1971（昭和46）年から隔年14回にわたり開催、その展覧会である「山種美術館賞展 今日の日本画」は、当時、新人の登龍門として広く注目を集め、高い評価を得ていました。

当館では開館50周年を記念し、かつて実施していた『山種美術館賞』の趣旨を継承した公募展『Seed 山種美術館 日本画アワード』を新たな形で再開いたしました。「今日の日本画 山種美術館賞展」から通算15回目となる本展は、これから時代にふさわしい、日本画の新たな創造に努める優秀な画家の発掘と奨励を目指します。

このたびのアワードにともない開催する本展では、厳正な審査の結果選ばれた受賞作品を含む40点の入選作品を展示、公開します。7人の審査員による白熱した審査が行われ、多数の力作の中から大賞・京都絵美《ゆめうつつ》、優秀賞・長谷川雅也《唯》、特別賞（セイコー賞）・狩俣公介《勢焰》、審査員奨励賞・外山諒《Living Pillar》\*の4点の受賞が決定しました。本展は加えて、松尾敏男《翔》、小山硬《天草（納戸）》（ともに山種美術館）など、過去の「今日の日本画 山種美術館賞展」の第1回～第4回の大賞と優秀賞作品12点を参考出品します。

開館以来、各時代の日本画を応援してきた当館のあゆみを振り返るとともに、現在そして未来の日本画をいう若手画家の作品をとおして、それぞれの時代の息吹をお伝えします。

\*審査過程において、審査員全員からの要望により、今回特別に「審査員奨励賞」を設けることになりました。

■展覧会名 : 【開館50周年記念特別展】Seed 山種美術館 日本画アワード 2016 —未来をになう日本画新世代—  
Yamatane Museum of Art NIHONGA AWARD : Seed 2016 — Meet the Future of Nihonga —

■会期 : 2016年5月31日(火)～6月26日(日)【24日間】

■主催・会場 : 山種美術館

■後援 : 文化庁、東京都、東京新聞

■協賛 : セイコーホールディングス 株式会社

■助成 : 公益財団法人 朝日新聞文化財団

■開館時間 : 午前10時から午後5時(入館は午後4時30分まで)

■休館日 : 月曜日

■入館料 : 一般700円(500円)・大高生500円(300円)・中学生以下無料

※( )内は20名以上の団体料金、および前売料金。

※障がい者手帳、被爆者健康手帳をご提示の方、およびその介助者(1名)は無料。

【きもの割引】会期中、きものでご来館のお客様は、団体割引料金となります。※複数の割引の併用はできません。

■展示予定作品 : 約50点 ※出品作および展示期間は変更される場合があります。

「Seed 山種美術館 日本画アワード 2016」入選作品（うち大賞、優秀賞、特別賞、審査員奨励賞 各1点）

「今日の日本画 山種美術館賞展」の大賞、優秀賞作品〔第1回(1971)～第4回(1977)まで 12点〕

■交通機関 : JR・東京メトロ日比谷線 恵比寿駅より徒歩約10分

恵比寿駅西口より都バス(学06番 日赤医療センター前行)広尾高校前下車、徒歩1分

渋谷駅東口ターミナル乗り場54より都バス(学03番日赤医療センター前行)東4丁目下車、徒歩2分

■問い合わせ : 03-5777-8600(ハローダイヤル 電話受付時間: 8:00～22:00)

■URL <http://www.yamatane-museum.jp/>

Facebook <https://www.facebook.com/yamatane-museum> / Twitter <https://twitter.com/yamatane-museum>

■住所 : 〒150-0012 東京都渋谷区広尾3-12-36

★入選者の発表、展覧会詳細は当館HPおよび本展の「受賞・入選作品決定のお知らせ(プレスリリース2)」をご参照ください。

★公募の詳細については、応募要項チラシと当館HPにてご確認ください。

報道関係の方からの本件に関するお問合せ先

展覧会広報事務局(ユース・ブランディングセンター内) 担当/池袋・岩川・大山

〒150-8551 東京都渋谷区渋谷1-3-9 東海堂渋谷ビル3F

TEL: 03-6821-9100 FAX: 03-3499-0958 E-mail: [yamatane-pr@ypcpr.com](mailto:yamatane-pr@ypcpr.com)

2016(平成 28)年 受賞作品



**大賞**  
京都絵美 《ゆめうつつ》  
2016(平成 28)年 絹本・彩色



**優秀賞**  
長谷川雅也 《唯》  
2016(平成 28)年 紙本・彩色



**特別賞 (セイコー賞)**  
狩俣公介 《勢焰》  
2016(平成 28)年 紙本・彩色



**審査員奨励賞**  
外山諒 《Living Pillar》  
2016(平成 28)年 紙本・彩色

[参考出品] 「山種美術館賞展 今日の日本画」の大賞、優秀賞作品

第 1 回山種美術館賞展 1971(昭和 46)年

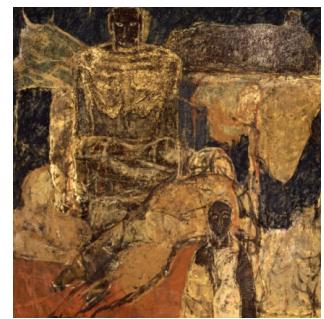


**優秀賞**  
松尾敏男 《翔》  
1970(昭和 45)年  
紙本・彩色  
山種美術館

第 2 回山種美術館賞展 1973(昭和 48)年



**優秀賞**  
小山硬  
《天草(納戸)》  
1972(昭和 47)年  
紙本・彩色  
山種美術館



**優秀賞** 小嶋悠司 《群像》  
1972(昭和 47)年 麻布・彩色  
山種美術館

第 3 回山種美術館賞展 1975(昭和 50)年



**大賞** 大森運夫 《山の夜神楽》  
1975(昭和 50)年 紙本・彩色  
山種美術館



**優秀賞**  
堀泰明 《童女》  
1975(昭和 50)年  
紙本・彩色  
山種美術館

第 4 回山種美術館賞展 1977(昭和 52)年



**優秀賞** 丹羽貴子 《ひとりごと》  
1977(昭和 52)年 紙本・彩色  
山種美術館

※ 出品作品および展示期間は都合により変更される場合があります。

※ 掲載の作品は著作権が切れておりませんが、この度の展覧会紹介に関する掲載については当館が著作権者から画像使用許可をまとめて取っておりますので、本展周知の目的に限り使用が可能です。

◆参考:『山種美術館賞展 今日の日本画』(1971~1997 年、全 14 回開催)とは?

当館は、創立者・山崎種二(山種証券: 現 SMBC フレンド証券 創業者)の「美術を通じた社会貢献」という理念のもと、日本画の奨励・普及活動の一環として 1971(昭和 46)年に『山種美術館賞』を創設しました。その後 1997(平成 9)年までの隔年 14 回にわたり、「今日の日本画 山種美術館賞展」を開催。この『山種美術館賞』は、推薦委員により推薦された画家が新作もしくは未発表作品を出品、選考委員による審査を経て、大賞 1 名、優秀賞 2 名が選定される形式で実施されました。

本展では、参考出品として第 1 回~第 4 回までの大賞、優秀賞作品 12 点を展示予定です。



第 9 回山種美術館賞選考の様子(1987 年)



## 【開館50周年記念特別展】Seed 山種美術館 日本画アワード 2016 —未来をになう日本画新世代—

## 受賞・入選作品決定のお知らせ

このたび、山種美術館の公募展『Seed 山種美術館 日本画アワード 2016 —未来をになう日本画新世代—』に多数のご応募をいただき、厳正な審査の結果、以下のとおり40名の皆様が入選されましたので、ここに発表いたします。

それぞれの方の個性が光る魅力的な力作の中から、大賞、優秀賞、特別賞、審査員奨励賞作品(各1点)が選ばれました。

※審査過程において、審査員全員からの要望により、今回特別に「審査員奨励賞」を設けることになりました。

※プロフィールの年齢は応募時のものです。

## 大賞 副賞 200万円



みやこ えみ  
京都 絵美

1981年福岡県生まれ(34歳)。  
2012年東京藝術大学大学院文化財保存学専攻保存修復日本画博士後期課程修了。博士学位(文化財)取得。創作活動の傍ら仏教絵画研究を続ける。現在、東京藝術大学非常勤講師、日本美術院院友。

《ゆめうつつ》

## 特別賞(セイコー賞) 副賞 腕時計(GPSソーラーウオッチ アストロン)



せいえん  
《勢焰》



かりまた こうすけ  
狩俣 公介

1978年千葉県生まれ(37歳)。  
東京藝術大学大学院美術研究科博士後期課程修了。院展奨励賞(2011, 2012)、春の院展奨励賞(2011, 2015)。現在、日本美術院院友、東京藝術大学大学院非常勤講師、女子美術大学非常勤講師。

## 優秀賞 副賞 100万円



ただ  
《唯》



ながのわ まさや  
長谷川 雅也

1974年京都市生まれ(41歳)。  
2001年京都造形芸術大学大学院修了。1998年第30回日展(現在、改組新日展)初入選、特選(2004, 2006)、審査員(2011, 2015)、2012年会員となり今日に至る。現在、日展会員、日春会会員、晨鳥社所属。

## 審査員奨励賞



《Living Pillar》



とやま まと  
外山 謙

1994年愛知県生まれ(21歳)。  
2013年愛知県立芸術大学美術学部日本画専攻入学。2014年グループ展「味物(ためつもの)展」Gallery White Cube。

現在、同大学4年次在籍。

## 審査員(敬称略・50音順) \*「廻」の本来の表記は「廻」ですが、パソコン、携帯電話等の画面の読みやすさを優先し「廻」を使用しています。

佐藤 道信(東京藝術大学 教授)／竹内 浩一(日本画家)／松村 公嗣(日本画家、愛知県立芸術大学 学長)／

宮廻 正明(日本画家、東京藝術大学大学院 教授)＊／安村 敏信(国際浮世絵学会 常任理事)／

山下 裕二(明治学院大学 教授)／山崎 妙子(山種美術館 館長)

## メッセージ 山崎 妙子(山種美術館 館長)

今回、259点の全応募作品は、バラエティに富んだモティーフの作品が多く、これからの時代にふさわしい伸び伸びとした自由な発想、確かな技術を感じさせるものでした。また、応募者の年齢は18歳から45歳と幅広く、入選者は男女比がほぼ半々という結果となっています。入選作品は、構図、色彩、技法など日本画本来の魅力を備えつつ、現代的な要素も盛り込んだ作品であり、日本画の確かな未来を感じることができました。ご応募いただいた方々に心より御礼申し上げます。

本展覧会を通して、現代に生きる若い作者による新しい日本画の息吹を感じていただければ幸いです。受賞・入選作品と第1回~4回の受賞作品(1971年~1977年)の比較展示もお楽しみください。



## 総評 竹内 浩一(日本画家)

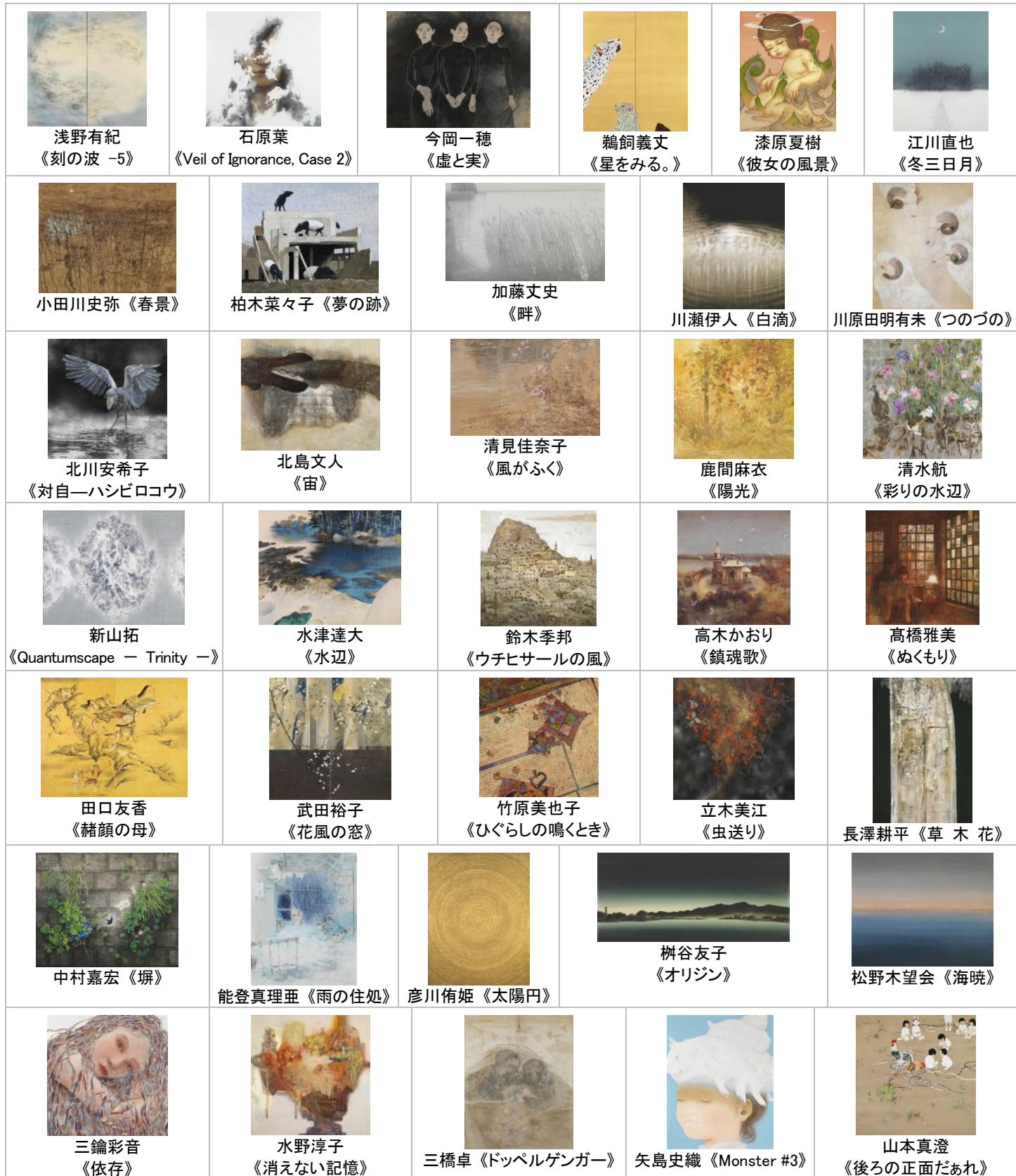
開館50周年を記念して「Seed 山種美術館 日本画アワード 2016」展が開催される。常に変動する社会にあって、公募メッセージには「日本の自然や風土の中に磨かれた日本画の魅力を未来に引き継ぎ感動と発見をもたらしたい」としている。明治以降の日本画の名品に流れるのは格調だと思う。村上華岳も奥村土牛も年とともに品位ある絵を描いた。日本画は写生を重んじてきた。対象と向き合い自他のない九識の境地を求めていた。

応募された作品は、奇のてらいではなく、安易な新しさに走らず、日本画の基底材のよさを甘受し、個の思想を画面に映しこんでいる。高い技量も相対レベルを上げていた。大賞を受賞した京都絵美さんの《ゆめうつつ》は、深く心に響く美しい絵だ。幻覚にある女性の目がいつまでも印象に残る。

作者を一点の絵で判断してはならないが、その一点が歴史に残る一点になるかも知れない。何時のときも、心への問いと技の研鑽が格調につながっている。



## 入選作品 (50 項)



### 【開館 50 周年記念特別展】Seed 山種美術館 日本画アワード 2016 —未来をになう日本画新世代—

- 会期：2016年5月31日(火)～6月26日(日)【24日間】  
 ■主催・会場：山種美術館  
 ■後援：文化庁、東京都、東京新聞  
 ■開館時間：午前10時から午後5時(入館は午後4時30分まで)  
 ■入館料：一般 700円(500円)・大高生 500円(300円)・中学生以下無料  
 ※( )内は20名以上の団体料金、および前売り料金。※ 障がい者手帳、被爆者健康手帳をご提示の方、およびその介助者(1名)は無料。

報道関係の方からの  
本件に関するお問合せ先

展覧会広報事務局(ユース・プラニング センター内) 担当／三岩・岩川・平松  
 〒150-8551 東京都渋谷区渋谷1-3-9 東海堂渋谷ビル3F  
 TEL: 03-6821-9100 FAX: 03-3499-0958 E-mail: yamatane-pr@ypcpr.com